

科学的根拠に基づき安全性評価

一般に生物が身体に取り入れる物質は、化学薬品も、そのほかどんなものも、量が多ければ身体に悪影響が出ますが、量が減れば影響は小さくなり、一定量より少なくなれば悪影響は認められません。

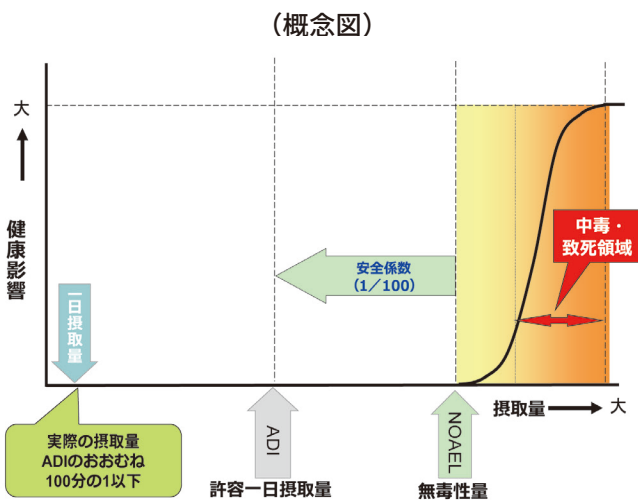
食品安全委員会が行う食品健康影響評価では、多数の動物試験等の結果に基づいて、農薬の体内への吸収や代謝、農薬を短期的・長期的に摂取した場合の影響、胎児への影響、発がん性等を確認し、各試験ごとに悪影響が出ない量を求めます。そのうちの最小の量をその農薬の無毒性量 (NOAEL) とし、人と動物との違いや、個人差などを考慮した『安全係数』(通常100) で除して、一生涯にわたり毎日食べても人の健康に悪影響が出ないと考えられる量である「許容一日摂取量」(ADI) を設定します(図2)。

また、24時間などの短期間に食べて悪影響が出ない量である「急性参照用量 (ARfD)」も設定します。

評価する試験の種類

- ◆ 環境(土壌・水)中動態及び土壌残留試験
- ◆ 植物、家畜等における代謝及び残留試験
- ◆ 動物体内動態試験
- ◆ 急性毒性試験
- ◆ 亜急性毒性試験
- ◆ 慢性毒性及び発がん性試験
- ◆ 神経毒性試験
- ◆ 生殖発生毒性試験
- ◆ 遺伝毒性試験 等

図2 食品中の残留農薬に関する各数値の関係



最新の科学的知見で再評価

2018年に農薬取締法が改正され、農薬の再評価制度が導入され、手続きは2021年度から始まりました。登録されている農薬のうち、使用量が多いもの、ADI等が低いものを優先的に、順次再評価を行っています。

2023年3月までに14剤について、農林水産省から食品安全委員会に再評価に係る評価要請がありました。当委員会の農薬に関する専門調査会で、順次、評価していきます(表)。

表 再評価依頼農薬

	評価品目名	用途	評価要請受理日
1	チオベンカルブ	除草剤	2022/9/28
2	チフルザミド	殺菌剤	2022/9/28
3	ブタクロール	除草剤	2022/9/28
4	1,3-ジクロロプロペン	殺虫剤	2022/12/14
5	アセタミプリド	殺虫剤	2022/12/14
6	イソチアニル	殺菌剤	2022/12/14
7	イミダクロプリド	殺虫剤	2022/12/14
8	クロチアニジン	殺虫剤	2022/12/14
9	ジノテフラン	殺虫剤	2022/12/14
10	チアメトキサム	殺虫剤	2022/12/14
11	グリホサート	除草剤	2023/1/25
12	エスプロカルブ	除草剤	2023/3/22
13	フェンメディファム	除草剤	2023/3/22
14	フサライド	殺菌剤	2023/3/22

食品安全委員会では、最新の科学的知見に基づき、一貫性をもって農薬の再評価に臨むため、農薬の安全性評価に関連する指針や考え方を策定・改訂し準備をしてきましたが、いよいよ本格的な議論が始まりました。

なお、この法改正では、ミツバチが持ち帰った花粉などによる巣内のミツバチへの影響評価(農水省担当)、水草や鳥類、野生ハナバチ類への影響評価(環境省担当)が加わるなど、農薬の安全性の審査対象も拡充されました。

